

エコプロダクツ2004

「環境」就職・進路相談会 in 東京

実施報告書

CONTENTS

序にかえて

「競争」と「調和」の二律背反を超えて
.....2



報告・評価

- ・シンポジウム 議事録
「企業の環境部って何？」.....4
- ・実施報告 アンケート集計結果
.....15
アンケート集計結果「シンポジウム」
アンケート集計結果「相談会」
アンケート集計結果「カウンセラー」
- ・「プレ環境就職相談会」報告
.....20



次回予告

2004.12.11

エコ・リーグ

www.eco-2000.net

環境と 就職を 考える。

「競争」と「調和」の二律背反を
超えて

序にかえて 2000年度実行委員長
近藤 大介

小学生たちの絵を見る機会があった。

ひとつは有名スポーツ選手の写真を用いて、実力のない選手が実力のある選手を食べようとしている『弱肉強食』の図。

もうひとつは、皿のチーズをおいしそうに眺めるネズミの絵かと思えば、そのネズミが皿に乗った所をおいしそうに眺めるネコがいる絵があった。じゃばら折りにした紙を使い、左右からみて別の絵を見せるようにした仕掛けで、『食物連鎖』を題材にしているといっていだろう。

昭和の昔、私が小学6年生の時には思いもつかなかった着眼点である。

今だからわかる違いだが、当時はちょうどバブルの時期だった。戦後体制を続けて経済成長が絶頂に乗ったこの頃、日本人のほとんどが中流以上だという意識をもち、弱肉強食を考えなくてもよかった。そして何より、自分たち人間が自然の連鎖の一部という冷厳な事実を目を向けなくてもよい時代でもあった。先祖代々から受け継がれた自然界の森羅万象を敬う精神は薄れ、ある意味、私たち人間は傲慢に

なっていたともいえる。

「環境就職相談会」に携わり始めたのは、それから10年後のことだ。

1998年当時の学生は、大卒間もない私と大した意識の違いはなく、「何やわからへんけど、環境は新しい」と、良い意味での物好きから集まった若者が多かったように思う。伝統的な自然崇敬は別として、自然環境と人間という関係づけが学問的にも社会的にも薄いままの時代だから、物好きの学生たちは自分で考えなければならない。というわけで、学生たちの気質も自発的に行動、質問も我流で作るといったように、手作りで動いていた面が強かった。

また当時の相談会は、数少なかった「環境関連」を掲げる職業人が集まるというだけで十分な意味を持ち、学生の注目を浴びていた。ただし、注目をしそうな学生の数は少なかった。一般化されていなかったのである。

さらに今日まで7年の歳月が過ぎた。

時とともに環境意識の向上が促され、ようやく世

開催レポート

「環境」就職・進路相談会2004 in 東京

開催日：2004年12月11日（土）10:00～17:00

第1部：シンポジウム「企業の環境部って何?!」

第2部：「環境」就職・進路相談会

開催場所：日経「エコプロダクツ展」内 東京ビッグサイト

参加費：無料

参加者数：415名

（第1部・第2部合わせて）

社会人カウンセラー数：53名

（キャリアカウンセラー2名含む）

広報：全国の800大学・
キャンパスの就職相当課宛に
ポスターを郵送
各メーリングリストに転送

予算規模：80万円程度



間に、特に若者層を中心に自然の流れを敬う心がよみがえってきたのだろう。参加する学生たちも受ける社会人も、その意識は大きく変わってきた。

当日の学生のやり取りからは「必死」ではあるが「おとなしい」との印象を受け、環境問題草創期?の7年前に比べると自発性に欠ける傾向がみられた。

いや、その評価は酷かもしれない。そう、小学生の絵にも現れたように、この10年近くで『弱肉強食』への礼賛が強まった影響ではないか。このキーワードで、環境問題を案ずる若者が就職時につきつけられる矛盾が浮かび上がる。

彼らにとっても、報告書をお読みくださる各位にとってもお気づきだろうが、人間同士の過剰な競争は、偏った製品生産や水・燃料など資源の大量消費を進め、さらには軍事紛争というように、他人との差をつけようとして自然を痛めつける恐れがある。だがその反面、職を得て仕事を守るためには他者を蹴落とすといった、適度な競争主義も必要だ。

二律背反である。が、多くの学生たちは環境意識が

高いはずで、頑張って他者を蹴落とそうとするよりは、それでもおとなしくなるケースが多いと思われる。「独創的」などと下手な動きはせず、なるべく調和策をとろうとする面があるのだろう・・・。

当企画の大きな目的のひとつが、この矛盾の解消だ。

いつしかのように「ある目標に向けて頑張る」人材だけを重宝するのではなく、自然や社会を大きく見渡して「頑張らずに調和や共存を求める」人材をも必要としている課題を学生と職業人とで共有することが、各世代の精進に寄与するのではないだろうか。

もちろん、私の理想だけでは語れないことが多い。それ以上に、今回の相談会が参加者・関係者各位それぞれの目的にかなない、自然環境のなかの一生物「ヒト」にとって役立つことを願ってやまない。

重ねて、各位のご厚誼とご協力に厚くお礼申し上げます。

シンポジウム 講演録

「企業の環境部って何?!」

環境問題に関心があり、環境部署で仕事をしたいと思っている学生が年々増えている。果たして環境部の仕事にはどんなものがあり、実態はどうなっているのか?どの様な能力が必要とされているのか?それらの疑問について実務者の日常業務を学び、環境の仕事の実際を理解してもらおう。

パネラー

長沼 雄彦 氏

株式会社損害保険ジャパン コーポレートコミュニケーション企画部CSR・環境推進室室長

田中 丈夫 氏

株式会社東京電力 環境部 環境交流グループ 副長

山口 真一 氏

トヨタ自動車株式会社 環境部 企画グループ 担当課長

ファシリテーター(司会)

田中 啓介

00年度実行委員長 / ホールアース自然学校

司会 それではまず最初に、今日はどのような学生の皆さんが来ているかなあということ、少し私たちに教えて頂きたいと思います。今から2つ大きな質問をします。まず1つ目についてです。「企業の環境部って何?!」というテーマで話がありますが、現時点で実際、皆様が環境部についてどのくらいイメージが出来ているのかを伺います。選択肢は次の3つです。

1番目:色々と本を読んで、とても明確に何やっているか分かっている。

2番目:ちょっと自信がないけど、何となくこんなことをしているんじゃないかなというイメージを持っている。

3番目:実は、ごめんなさい、就活やっていますが、全然環境部って分かりません。よいですか?

では、まず1番の方。誰もいない…素直でいいですね。

2番目の方。…これが全体で多いですね。7割くらい。

3番の方。…はい、3割くらい。いいですよ、その皆さんのための時間でもありますから。

次の質問です。今日のシンポジウムに来た目的を伺いたいと思います。選択肢は4つ。

1番目:就職活動をやっているの、とりあえず何か「就職・進路」って書いてあったから来てみた。

2番目:環境系ではなくて、パネリストの企業に関心があるから来た。

3番目:営業もしてみたいしメーカーにも興味があるけど、環境系のことも何かしたいので、とりあえず選択肢の一つとして環境系があるから来た。

4番目:むちゃむちゃ環境系。環境系でガンガンやって行きたい。

それでは、1番の方。…お、いた。

2番の方。3人くらいかな。

3番の方。これが一番多いですかね。全体の9割行くのかな…。

いや、4番目。…これも結構多い…。

はい、分かりました。そんな皆様とこれから一緒に時間を作っていきたいと思います。

大きな流れといたしまして、まずお3方にプレゼンテーション、今それぞれの企業でどんなことをしているのかを紹介していただきます。その後、私の手元に、皆様から事前に寄せていただいた質問集がありますが、これを元に代表的な質問をピックアップしながら、できるだけ僕自身が皆さんの声の代弁者となって、疑問に思っていること、聞いてみたい事を率直にお3方にぶつけていきたいと思っています。ただ、これは皆様の時間ですから、ここを聞いてみたいということがあったら、積極的に質問して頂いて結構です。

それではさっそくですが、プレゼンテーションに移っていきます。

大学時代、この方は芝居をされていました。当時90年代、芝居と言えば、ドラマと言えば、TBS。とまあ、一種の流行語のようなものがありまして、自分はテレビドラマを作りたいということで、TBSの入社を希望されていました。残念ながら、TBSからは内定がもらえま



シンポジウムの様子

せんでした。その方は、形があるモノよりも、形のないモノを商品として扱っていきたいと思って、例えば、商社であるとか、コンサルであるとか、保険であるとか・・・そんなことを考えて就職活動をした結果、今この方がいらっしゃいます。「株式会社損害保険ジャパンコーポレートコミュニケーション企画部CSR・環境推進室の長沼雄彦様、お願いします。

損保ジャパンの概要

長沼氏(以下、敬称略) ご紹介ありがとうございます。まず簡単に、損害保険ジャパンの会社概要についてお話させていただきます。その名の通り、損害保険会社です。皆様にも親しみがあると思う自動車保険ですとか火災保険、そういった保険商品を売っている会社です。

2002年7月に、元々別の会社であった安田保険と日産火災という二つの会社が合併して、今の損保ジャパン、同12月に大成火災も合併して、3社が合わさった形で発足しました。覚えていただきたいのは、社員ですね。現時点で、15529名おります。その後、その中で環境の仕事に携わっているかは、後でご説明していきたいと思えます。

次に、大学から今までの経歴をお話します。95年に慶應義塾大学の環境情報学部を卒業しました。第一期生だったので、先輩はいませんでしたし、他に就職する人間も、我々350人くらいが初めてでした。ただ、大学時代は特に環境問題について詳しく勉強していたわけではありません。卒業と同時に、安田火災海上保険に入社いたしまして、一年間の研修期間を経まして、96年に三重県の営業課に配属になりまして、そこで3年間営業活動をしました。その後、東京にある本店のSC(サービスセンター)で、お客様が自動車事故にあわれたときに、自動車事故の調査をしたり、時には相手方と交渉したり、最終的に自動車保険の保険金を支払う査定の仕事をしていました。そこに三年間いたところ、2002年の7月に環境省に出向せよ、と言われまして、全く環境の仕事をしていたわけではないのですが、環境省の地球環境局地球温暖化対策課に出向しまして、そこで京都議定書に関わる各国との国際交渉を担当させていただきました。そこで二年

間仕事をさせていただきまして、この2004年4月に現職に就いたという流れになります。

それで、この部署はちょっと珍しい名前かと思いますが、わりと歴史は長いです。安田火災の時代ですが、1992年に地球サミット、初めて温暖化などが取り上げられたサミットですが、これに当時の社長が民間企業から参加しまして、これからは企業として真剣に取り組まなければならないと思ったらしく、この部署が設立されました。設立から色々な変遷を辿って、2003年12月から現在のCSR環境推進室になっています。

それで、現在この部署で働いている社員は、総合職が7名、業務職が3名、総合職の内訳は男性6名の女性1名、業務職は女性3名。だいたいこの10名が中心になって仕事をしています。ですから、15529分の10人、という部署になります。

CSR環境推進室の位置づけですが、経営企画部門、要は会社が事業を行っていく上での方向性を決める部門ですね、その中に会社組織全体に指示を送る、経営企画部ですとか、人事関連の人事部、社長や役員の見解を反映する秘書部がありまして、その中の一部署として「コーポレートコミュニケーション企画部」が位置づけられています。これは会社の広報部ですね、マスコミの対応をしたり、当社でやっている活動の情報発信・宣伝をやったり、CMを作ったりという部署なのですが、そのコーポレートコミュニケーション企画部の中の一部門として、CSR環境推進室が位置付けられています。

CSRとは

CSRとは、Corporate Social Responsibility、企業の社会的責任と訳されています。端的に言うと、企業が事業活動の中で、業績を上げることは当たり前ですが、それに加えて、自主的に環境や社会への配慮を組み込むことだと考えています。ですから、今までの日本の高度成長期の企業でしたら、単純に利益さえ上げていけば、それだけで良い企業と呼ばれていたのですが、これからは違いますでしょうと。利益をあげて、株主に還元したり給料を払うのは当たり前のことです。それに加えて、社会貢献も行っていないといけないし、人権の問題ですとか、労働関係の問題など社内の問題にも取り組まないとけない。さらには、環境問題にも企業として何らかの形で貢献していかなければならない。企業の評価というのはこの3つの軸で評価されるべきですね、と。それがCSRでして、当社も、CSRを果たす企業を標榜しています。

CSR環境推進室の業務内容をほんの一部の例ですが紹介します。まず、社内外でCSRを推進するための総合窓口業務があります。個人的には、CSR関係の情報収集、つまりインプットと、自分なりに咀嚼して社内外の企画に反映させるアウトプット、これの繰り返しだと思います。

A：CSRに関する社内取り組みの推進(社内研修、情報提供、営業支援)

B：CSRを通じた社外とのコミュニケーション業務

シンポジウム

(取材対応、講演、会議・ワークグループ参加、来客との情報交換)

C : 環境関連商品・サービス、SRI (社会的責任投資) ファンド

D : コミュニケーションツール製作 (CSRレポート、HP、コンソーシアム)

E : 環境関連活動、イベント事務局業務

F : 社会貢献活動 (文化事業を含む) の推進

G : 損保ジャパン各財団法人 (環境、美術、記念) との連携業務

H : 社員が自主的に行う環境保全、福祉、文化、国際協力などの社会貢献活動等の取り組みの推進

と列挙しましたが、ざっとご覧になっていただければ分かると思いますが、CSRですとか、当社の環境問題の内容について、社内の研修を行ったり、社外の方々と意見交換、情報交換を行ったり、環境関連活動・イベントの事務局業務を行います。損保ジャパンは、10年間ほど「市民のための環境講座」と言う、色々な環境問題に関するセミナーを開催して、市民に知っていただくイベントを継続して行っていますが、そういったアクティビティの事務局業務もやらせていただいております。

あと、3つ財団を持っています。環境財団、美術財団、記念財団の行う活動との連携業務も行っています。環境財団がやっているものに、CSOラーニング制度があるのですが、これは希望する大学生、大学院生の皆さんに、提携

している環境NGOに行って、色々勉強をしながら働いてもらおうと。そのアルバイト料などは、有志の社員の給料から天引きして、自給いくらかでお支払いをする。

損保ジャパンのある一日の仕事

もう少し具体的に話をしますと、実際に一ヶ月くらい前にあった一日を紹介します。8時半くらいに出社して大体30分くらい、新聞記事ですとか雑誌の内容で、CSRあるいは企業の環境関連活動に関する記事をチェックして、役員・社長に送る作業があります。その後、9時から30分くらいミーティングがありまして、10時から社外で行われているCSRのワーキンググループ、企業ですとか、環境省といった政府の方々が集まって意見交換をするような会合に出ました。その後昼食を挟みまして会社に戻ってきて、色々な部署の社員に当社が行っているCSR活動の研修の講師をやりました。その後3時から4時まで環境省を訪問しました。私は一時環境省で仕事をしていたので、昔の同僚に顔を見せに行くこともありますが、そうやって新たな情報収集を行いました。

会社に戻ってきて、CSOラーニング制度の大学生と環境財団で色々打ち合わせをしたり、最近どんな活動をやっているのかと報告をもらったりしています。その後6時半から時々あるのですが、新宿区内で活動する環境関連のNPOの方で、テーマは当社の環境報告書の内容について紹介して欲しいということで、その講演を行い



左から、長沼氏、田中氏、山口氏

まして、9時くらいに帰宅でした。

これが毎日の流れではなくて、一日中デスクワークの日もあれば出張する日もあります。平均して月に一回くらい、愛知万博の仕事で名古屋出張をさせて頂いたり、時には海外出張も年に二回くらいさせて頂いております。

皆さんが一番興味があるところかなと思いますが、ここで働くにはということですが、特に当社の場合、必要とされる環境関係の知識・能力・人脈などはない「はず」と書いてありますが、これは人事部に直接聴いたわけではないのですが、少なくともそこで働いている私自身は、特別な知識や経験があるわけではないので、やる気があればできるのではないかなと考えています。それよりも、社内外とのコーディネーション業務が多いので、会社組織と本来業務の内容を知っていることの方が重要だと思います。先ほども申し上げましたが、社内で研修をやったり、省エネですとか環境活動に関する企画を立ち上げたり、社外の方々とCSR活動どんなことをやっているのですかと情報交換をすることもあります。そういう社外の人と話す時に、社内の組織や保険のことについて全く知らないとなると、現場で働いている方々と全く話が通じないんですね。ですから、自分達の仕事を知らないヤツの言うことをどうやって聞けるか、となりますので、基本は抑えていくことが必要。それと、社外の方々と話をさせて頂く時に、環境関連の部ではありますが、社外の方々は私のことを損害保険業界の人間だと思って接して下さるので、当然、損害保険業界について、損保ジャパンという個別の会社について、全くそれは知りません、という話ではできませんよね。

ということで、ある程度の経験は必要かなと思っています。それを踏まえると、これも人事部に聴いたわけではないのですが、総合職の場合、入社1年目から配属される可能性は低いです。実際今まで過去代々いた担当者の中でも、一番早くて3、4年目くらい。とりあえず、現場を1回経験してみてもからですね。業務職の場合は、入社1年目からのケースもあります。

ただ、希望を出し続けて配属されることは運任せか、というそうではなくて、当社の場合、入社後希望の部署に移動するための「ジョブチャレンジ制度」があります。これは希望の部署が人を募集していたら社内のネットの掲示板に、この部署こんな人募集のように出ます。そこに行きたいと思っていたら、自分で手を挙げて人事部に直接送ります。そうすると、自分の今の上司には分からないように、人事部と直接交渉できます。それで面接も上司に分からないように、日曜日にこっそり本社何階の会議室に来てくださいと言われて、直接希望理由を述べたりします。それで認められれば、次の異動の時期に希望の部署にいけると。そこで、自分の上司はお前そんなことをやっていたのかと初めて分かります。落ちたとしても上司には分からないわけですから、今の仕事に不満を持っていることは絶対にばれないわけです。そういう制度がありまして、ここ5、6年ですかね、この制度を活用してCSRの部署に来た人間もいます。

終わりにですが、自分の経験を踏まえまして就職活動

のポイント、様々な業種・業界を覗いた上で、的を絞っていくことだと思います。まずは興味のある業界会社を訪問してみるから。色々な業界や会社を渡り歩いて、会社の人々に何の利害関係もなく会って頂けるのは今だけです。ですから、興味のある業界や会社があると思いますが、もう少し興味の幅を広げてみて、とにかくパンパン行ってみること。その会社に行かなかったとしても、後々の経験に繋がってきます。是非、そういった観点で活用していただきたいと思います。

司会 はい、どうもありがとうございました。皆さん、色々な人に会えるのは今だけだそうです。是非とも有効活用をして欲しいと思います。

さて、次の方にうつります。大学時代のゼミの先生が、メーカー志向、つまり、モノを作って利益を追求する、と言われていたために、初めはメーカーを志望していらしゃいました。しかし、自分ひとりの力で社会を変えていくことを考えた時に、ひょっとすると企業の力で変えていったほうが良いのではないか。それでは、より社会に強い影響力を持っている企業の方が活動できるのではないか、と考えてこの会社に入られた方のプレゼンテーションをお願いしたいと思います。東京電力環境部環境交流グループ副長、田中様。

東京電力の概要

田中氏(以下、敬称略)始めまして。東京電力環境部環境交流グループ副長の田中丈夫と申します。よろしくお願ひします。

東京電力では、「TEPCOのECO」と言うことで、最近この環境メッセージを使っています。双葉のマークをモチーフに、片方が電球で片方が葉っぱとなっています。東京電力では、電気を作ることにも非常に大切に考えていますし、それと同時に環境を守ることも考えていますよ、ということで、この「作る大切さ、守る大切さ」を伝えています。

さらに、これは文字遊びですが、TEPCOの中には「T」「E」「P」「C」「O」と、ECOがあるので、東京電力の仕事にエコが含まれているというメッセージです。電気を作ることと一緒に環境を守ること、これは私たちの変わらない使命であり、東京電力全体で環境に対して取り組んでおります。

まず、自己紹介ですが、私が環境問題を意識するようになったきっかけは、高校の部活動でヨットをやっていたことからです。茨城県の霞ヶ浦で練習をしていました。実は、霞ヶ浦では、1970年代から80年代くらいに湖の水質の栄養価が高くなってきました。富栄養化です。そうすると、アオコが発生します。実は今ではアオコは発生しないそうですが、あまりにも栄養価が高くなりすぎてしまったためらしいです。何故、アオコが発生するかというと、霞ヶ浦の周りに養豚場がありまして、そこから処理されていない尿が流れ込んできて、栄養価が高くなってしまったためです。私が練習していた頃は、夏場にアオコが大量発生して、非常に悪臭を漂わせていました。ヨットのレースの場合、水面はどこを使っても

良いのですが、たまたまアオコの近くに入ってしまうと、ヨットのスピードが急に遅くなって、先頭を進んでいたのに急に最後になってしまいます。その時に、環境の大切さを体感しました。

そんなこともあり、1988年に慶応大学を卒業し、東京電力に入社しました。初めに配属されたのは茨城支店の龍ヶ崎営業所で、営業課に配属になりました。営業の仕事は、電気工事屋さんから「屋内配線工事が終了したから新規に電気を入れてください」という申し込みの受付です。それともう一つは、例えば車庫を作るのに電柱が邪魔になるから移動させてください、という時の対応をしていました。

1993年になって、「環境部環境総括課」に異動になりました。現在は「環境部環境交流グループ」にありますが、通算して10年以上環境の仕事をしています。その途中、1999年に「The Nature Conservancy」という、アメリカ最大級の環境NGOに一年間出向しました。そこで、海外の環境NGOがどういうものかを実体験したり、あるいは広報活動の手伝いをしたりしてきました。

The Nature Conservancyの話をちょっとだけしますと、生態系の豊かな地域を保全するのですが、そのために同組織の科学者達がアメリカを小さなグリッドに分けて、その中にどれだけ生態系が豊かかどうかを判断し、保存していく。保存するためにどうしたらよいかというと、その土地を開発されないように買ってしまうということです。自然系の不動産屋さんのようなことをしているNGOです。

帰国し、しばらくしてから環境広報を専門に携わる「環境交流グループ」で仕事をするようになりました。

1993年に環境部に配属になってから現在に至るまで、環境省の「環境カウンセラー」という資格を取得したり、自然体験活動推進協議会の「CONE」という自然系の資格を取得しました。

続いて、東京電力の環境部がどうなっているかという話をします。ちなみに、東京電力は、社員が約4万人いまして、1951年に発足しております。環境部の変遷なのですが、まず東京電力が行っていたのは公害対策でした。そのために1963年に、排気対策委員会という、公害を防止するための委員会が本店組織にできまして、その後1968年に初めて本店の中に「公害対策本部」という専門組織が出来ました。ですので、この時がいわゆる「環境部」という部門ができたということです、ただ、業務は公害対策です。

その後、1985年に「立地環境本部」が出来まして、その中に環境部が発足しました。環境部の業務内容は、立地環境ということで、発電所を建てた後に環境影響があるかを調査することでした。火力発電所を作って、煙突から出る排気が地域周辺にどういう影響を与えるかとか、そういうことを調べるのが環境部の仕事でした。その後、だいたい10年前から地球温暖化問題とか廃棄物問題が

浮上してきました。更に電力の需要も今後伸びていきますので、発電所を建てる必要がなくなってきます。そうすると業務の中心が、地球環境対策、あるいは廃棄物対策、広報活動、情報開示活動になってきて、2002年に環境部が経営企画部門として独立し、て今に至っています。

東京電力の環境部門

東京電力の環境部門に携わっている社員は540人います。本店で環境業務を担当している社員は約140人おりまして、そのうち私たちの環境部の人数は80名くらい。残りの400名は現場の支店や発電所にあります。10年前に配属した時、環境総括課と環境技術開発グループという、技術と事務のグループだけで、全員で20名弱くらいでした。それが今では80名くらいの人員をかかえる大きい部になっています。東京電力全体を見ても、ここまで伸びている部門はないと思います。

具体的に環境部がやっている仕事は、かなり多岐にわたっています。それぞれのグループが何をやっているかをお話しますと、まず、環境管理グループは、環境報告書、今はサステナブルレポートという言い方をしている場合がありますが、東京電力で1992年から環境行動レポートを作っています。当社が日本で最初に発行したと思います。環境管理グループでは、ISO1400



ファシリテーターの田中氏

1などの環境管理の業務も行っています。

環境技術グループでは、廃棄物対策などにかかわる業務を行っています。あるいは、発電所の緑化活動を行う時に、どういう施工をしたら良いかや、どういう活用ができるかを考えております。

それと、CO2に関わる仕事の割合が多くなりまして、地球環境グループ・国際業務グループ・生活環境グループ・グリーンサポートグループ・社会システムグループが関わっていて、それぞれの業務内容は細分化されています。

地球環境グループは、国内の地球温暖化対策への提言や、当社のCO₂削減目標に向けた方策を検討しています。

国際協力グループでは、オーストラリアの当社植林地の管理や、炭素クレジットにかかわる海外プロジェクトの検討を行っています。

生活環境グループでは、家庭でのCO₂削減に向けた提言を行っています。CO₂の排出量、1990年に比べて民生部門あるいは運輸部門では、20、30%伸びてしまっています。それを国全体として下げるためにはどうしたらよいかということですが、例えば、レタスクラブと一緒にCO₂家計簿を作り、CO₂を下げることで地球環境に優しい暮らしをしつつ、自分達の家計も助かりますよということをご理解いただく取り組みをしています。

グリーンサポートグループは、国内におけるCO₂削減に貢献できる森林保全活動について検討しており、社会システムグループでは、運輸部門のCO₂の伸びが高くなっていますが、運輸部門のCO₂削減をどうしたらよいか考え、実行していこうというグループです。

P C Bソリューションセンターは、昔の変圧器の中に有毒物質であるP C Bが混入している絶縁油があり、そのP C Bの無害化処理に取り組んでいるグループです。

環境交流グループでは、社外に対して当社の環境対策はどうしているかとか、社員の環境意識を上げるためにどうしたらよいかを行っている部署です。最近の成果というと、このエコプロダクツ展に出展していることです。また、この4月から環境のTVコマーシャルをやっていますが、これを広報部と一緒に作っています。社内外の環境広報業務を行っているのが、環境交流グループです。

東京電力のある一日の仕事

一日のスケジュールですが、手短にお話しますと、8:20くらいに出社しまして、新聞を見たり、メールを見たりという対応を9時くらいまで行っています。これは本当にある日の一日ですが、この日は10時から11時に社外の広報関係のお客様が来て、当社の環境広報するのにどういう媒体を使ったらよいか、という打ち合わせをしました。11時から12時に出張報告会に参加しました。イタリアとフランスにL R T (Light Railway Transit) の視察をしてきた報告会です。

12時から12時30分というのはお昼休みですが、メールの処理をしています。お昼休みにすぐ食堂に行ってもかなり混んでいるので時間差で行っています。13時から15時まで社内会議で、15時から17時は資料作成です。この資料作成というのは、先週千葉県で自然科学講演会があって、東京電力の環境教育の支援活動がどういうことをやっているかを発表してきましたが、この発表のためのものです。18時から20時はN P Oとの勉強会で、世界の環境教育について高野孝子さんから発表があったので聴いてきました。以上が私の紹介です。

東京電力の「環境部」で働く、ということですが、人



熱心に聞く200名を超える参加者

脈はもちろんなくて、入社一年で配属されることも全く今まででないですね。だいたい現場で色々な仕事を経験した上で配属になるようです。

司会 はい、どうもありがとうございました。

最後の方のプレゼンテーションにうつって行きます。元々、車が好き、特にセリカという車が好きになって、それがきっかけで車のメーカーに入られたそうです。この方いわく、皆さんのほうがよっぽど就職活動に対して前向きで色々なことを研究されている。自分は、当時は漠然としたことしか就職のことを考えていなかったと仰っていました。トヨタ自動車環境部企画グループ担当課長の山口眞一様、お願いします。

トヨタ自動車の概要

山口氏(以下、敬称略) 山口です。よろしく申し上げます。さっそく、自己紹介をします。現職は、先ほど紹介がありましたように、環境部企画グループの担当課長です。大学は、大阪大学経済学部を卒業した後、トヨタ自動車に入社しまして、最初は財務部経理課、次に経理部監査課、ということで、最初は全然環境とは関係のない部署にありました。それから広報部交通環境グループで、この辺からちょっと環境寄りになってきています。交通環境グループは交通安全と環境と交通政策の3つがありまして、その中の交通政策を担当していました。ただ、同じグループ内で環境をやっていたので、この辺で少し環境に寄ってきたわけです。

それから、渉外部自動車グループ。ここの仕事は環境関連です。環境省とか、通商産業省(現経済産業省)の環境政策をやっている部署を担当していましたので、この辺からだいぶ環境によって参りました。それから平成10年に財団法人E V (電気自動車)協会に出向して、ハイブリッドの補助金を担当しました。要は、1997年12月10日にプリウスが発売されました。その関係で補助金が国から出ることになりまして、通産省から、どうせ補助金はプリウスだけなのだから手伝いに来い、ということでした。それで、うちの会社から私ともう一人E V協会に呼ばれまして、一年間行って補助金をどういう風に交付するかとい



プレゼンをする田中氏

う制度を作り上げました。それが大体軌道に乗ったので、どこかに戻してということで、財務経理は好きじゃなかったの、じゃあ、環境部に行かしてくれ、ということで、環境部に行きました。環境部は、事務屋と技術屋だと、3:7くらいで技術屋が多い。それなので、学部はどこであっても関係ございません。

次に一日のスケジュールですが、フレックスタイム制なので、だいたい9時くらいに行って、メールチェックや電話応対をしまして、この日はお客さんに対して環境プレゼンテーションがありました。そのまま、昼食をとりながらやりました。それから席に戻ってきて資料作りをして、社内会議、そして資料作りで帰るというようなこと。そのほか、一日中出張もありますし、海外出張もあります。

トヨタとしては、環境問題への対応は経営の最重要課題と位置づけまして、「トヨタ基本理念」や「トヨタ地球環境憲章」、これはいわゆるISO14001で言えば、環境方針に当たるものです。そして、トヨタ環境取り組みプランというアクションプランに進めてやっているということです。

「2010年グローバルビジョン」は、02年4月に2010年に会社がどうあるべきかを発表したものです。これは、4つ柱があって、その一番に再生社会・循環型社会の到来を予測し、それに対して地球にフレンドリーな技術で地球再生を牽引することを、社会に対して公約したということです。グローバルビジョンにおいて一番初めに持ってきているということで、会社が環境に本気で取り組んでいる、ということが分かって頂けたと思います。

それから、トヨタ環境部の概要ですが、ちょうど1997年12月にプリウスを発売して、98年の1月に環境部が出来ています。人員が74人で、東京本社は24名

で豊田本社は50名で、私は豊田本社にいます。

環境部の業務内容ですが、私が担当しているのは環境諸課題への対応方針取りまとめや調整です。それから環境の委員会がございまして、トヨタ環境委員会の事務局をやっています。それから環境動向分析、渉外活動はだいたい東京本社の環境部が担当しております。また、環境マネジメントの推進ですが、自社はかなりやってきているので、今後は連結子会社ですね、世界中に連結子会社が554社ございますので、トヨタ自動車本体のみならず、連結子会社についても推進しています。それから来年1月から施行されます自動車リサイクル法への対応、それから環境会計で環境コストや経済効果を分析しています。あとは、環境報告書の発行、環境教育、環境プレゼン

です。役所や大学に呼ばれたり講演したり、あとは展示ですね。こういうことへの対応をしています。

先ほどの委員会ですが、「トヨタ環境委員会」が一番上にあって、張社長が委員長になっています。その下に「製品環境委員会」はハイブリッドカーなど製品関係、「生産環境委員会」は工場の環境ですね、それから「リサイクル委員会」となっています。

環境をやっているのは環境部だけではない

ここで言いたいのは、環境をやっているのは環境部だけではないのですよ。というより、環境部自体は実務はやらない。どちらかというと、コーディネーション、調整をやります。実際にやっているのは、そのの主管部署です。例えば、道路交通システムだったら、IT・ITS企画部がやっています。植林も、バイオ・緑化事業部という部署がやっています。例えば、CO2を吸収する植物はどんなものがあるとか、中国に木を植えたりしています。それから、トヨタの環境の取り組みをPRする環境フォーラムを開催していますが、これは広報部がやっています。環境部は協力しているだけ。トヨタの環境施設・工場見学ツアーは、企業PR部がやっています。お客さんを案内して説明をしています。商品カタログへの環境情報掲載は宣伝部で、環境部は内容をチェックするだけです。あとは、環境展示は広報部がやったり、環境部がやったりといった感じです。あとは、社会貢献活動で言うと、「トヨタの森」という、トヨタの本社の近くに森がありまして、そこを保存していますが、これは総務部がやっています。中国での植林は、バイオ・緑化事業部がやっています。中国政府から依頼されて、砂漠に木を植えて今すっかり木が生えて砂漠だった場所が、林くらいにはなっています。「トヨタ白川郷自然学校」は来年開校しますが、これは環境部の担当ですね。あとは、

「グローバル500賞」は、国連からトヨタが3、4年前に表彰され、聞くところによれば、企業の受賞は珍しいのですが、取り組みが高く評価されたということです。しかし、受賞の見返りに寄付をしなければならなくなって、年間二億円ずつ寄付しています。これは、全国のNPO等に環境プログラムを募集しまして、こういう環境のプログラムをやるのでお金を下さい、ということで提案を出してもらう。それを審査して、二億円の中からこれはどこのNPOさんの取り組みに何百万円ということでお出しています。あとは、WB C S D (持続可能な発展のための世界経済人会議)では、当社の名誉会長が副会長をしていますが、全世界の有力企業が入って持続可能な社会に向けてどう取り組んでいくべきかについて研究しています。

トヨタ自動車の今後の取り組み

最後に、環境部の今後の取り組みとしては、3つくらいかなと。トヨタ本体だけではなくて、連結子会社も含めて環境取組を推進していく連結環境マネジメント。それから、自動車リサイクル法が一月から施行されるので、これへの対応もやっていかなければならない。それから化学物質の管理ですが、これはグローバルにしっかり管理していく必要があります。

気になる配属で言いますと、環境部はコーディネーション部署ですから、いきなり新人が配属されることはほとんどないです。今年初めて私の下に博士号を取った新人が来ましたが、それ以外はないのでほとんどないと思ってください。先ほど申しましたが、別に環境部だけが環境をやっているわけではなくて、色々な部署がやっています。そういう部署はもちろん新人もおります。だから、最初から環境部に行こうと思っても行けませんので、行ける部署で環境に関して出来ることはたくさんあるわけですから、そういうところに行かれたらよいのではないかと思います。

司会 はい、どうもありがとうございました。以上でお3方のプレゼンテーションを終了します。たくさんキーワードが出てきたと思います。まず、最初に伺った「環境部のことは何となくしか理解できていないのだけど」



参加者からの質問

という方が圧倒的でしたが、実はそれでよかったようですね。というのは、「環境部=これですよ」ということではなくて、非常にたくさんの業務が多岐にわたっていました。講師があり、イベントがあり、資料作成があり、とにかくたくさんの仕事をしているのが環境部なので、逆に言うと、ちゃんと組織の中のことを理解していかないとダメなんですよ、だから皆さん仰っていましたね、入社一年目からの環境部への配属は通常まずありえませんかよ、ということでした。ただ、その一方で、ジョブチャレンジ制度、つまり志向していればいつかは認められてそこに行くことができる制度もあるので、可能であればそういったものを使うこともできますよ、と。ただし、希望すれば行くのだけど、じゃあ、本当に希望する先が環境部でいいのか、ということも山口さんが仰っていました。環境部だけが環境のことをしているんじゃない、山口さんの言葉を借りると、環境部はコーディネート業務に徹する、ということが環境部を端的に表していると思いますが、長沼さんや田中さん、その辺環境部でなければ環境のことができない、というのはどうも妄想だということで、お話しはありますか？

田中 環境部でなければ環境が出来ない、ということですが、当社の環境に携わる人間は540人います。例えば、地中線の工事事務所の中でも、地中線の工事をする時に土を掘り返して、この土を数日保管して、また道路を塞がなければなりません。要するに、工期を短縮することによって環境負荷が少なくなるとか、土を掘ったあとどうするか、また埋め戻したり、またはどこかに持っていかなければならなかったり。全ての所で環境の考えた方の必要性はあります。でするので、どこに行っても環境の意識は大切だと思っています。

司会 どこに行っても環境の意識は大切で、それが全てつながっているということですね。

長沼 損保ジャパンも全く同じですね。我々の仕事は、企画運営・コーディネーションが中心ですが、例えば保険会社で、産業廃棄物に関する保険ですとか、風力発電事業をやる時のリスクを担保する保険、それらを支援するサービスですとか、環境に配慮した株だけを集めたファンド、エコファンドを作っているような部署はそれぞれ個別になりますので、そういった商品開発ですとか、新しいサービスを考える部門でも多に環境の観点から仕事ができると思います。

司会 何も環境部だけが環境のことをしているのではないのだから、常に環境に対する意識を持って、仮に環境部とは全然違うように見える部署に行っても、実はそれが全て環境のことに繋がっているということも少しずつ明らかになってきたかと思っています。

その環境部、または他の部署で環境の事でやっている時に、よく皆さんからこのような質問があります。先ほどから、例えばCSRなどという話がありますが、環境のことをやって行くと、ひょっとすると企業の利益を追求する活動と相反するのではないか。だから、他の部署と確執があったりとか、他の部署から疎んじられているのではないかという質問があるのですが、今の話を

聞いていると、むしろ環境部が企業の活動を促進していくような役割を担っているような印象を思ったのですが、山口さん、その辺いかがですか？

環境と経済の両立は

山口 いえ、別に全然敵対はないですね。重要なキーワードとしては、環境と経済の両立なんです。ですから、利益追求ももちろん大事ですし、環境保全も大事。その両立を図って進めていくということが大事なんです。その方向付けをするのも環境部がやるものですから、敵対したりとかは全然ありません。例えば、ハイブリッドの開発をしている部署があります。それから、利益計画を経理がやっている。この二つの部署が敵対することがありますが、そこへ私どもが出て行って、まあまあ、とコーディネーションをやる。環境部が直接的に敵にはならないです。

司会 文字通り、環境と経済の両立をする時の潤滑油のような役割を果たすと言うのが、環境部であると。

田中 潤滑油、というか、相乗効果を働かせるのかもしれないですね。例えば、営業との相乗効果。当社にはエコキュートという給湯機があります。これはヒートポンプの仕組みを使って、100投入したエネルギー以上の力を生み出せる仕組みです。化石燃料を燃やしてエネルギーを取り出しても100以上の力にはなりません。そんなエコキュートを営業が売っています。ただ、営業が普通に売っただけだとなかなかお客さんも理解してくれないし、購入しただけなんです。環境部で環境の非常に良い側面を訴求してあげると、営業と一緒に売上を伸ばせるかもしれません。そういう取り組みをしています。要するに支援することはできると。

司会 環境と経済の両立を図る潤滑油、または、相乗効果を求めてうまくコーディネートをしていくのが環境部。だから、コーディネートをやりたいと思っている方にはすごくよい部署かもしれません。ただし、皆さんの中でも、いや自分はどちらかという現場に出て暮らして環境をやりたい人にとっては、むしろ環境部ではなくて他の部署で環境に繋がることに目指して行った方がよいことになるかと思えます。

さあ、その中でももう一つ出てくることがあります。環境部に行ってもよし、環境部以外のところで環境に繋がるようなことを考えていくでもよし、いずれにしても環境に向けた方向性で自分の進路を考えていく時に、企業からよく「即戦力」を言われます。環境部、または、それ以外の部署でも環境で頑張っていこうとする皆さんに対して言われている「即戦力」、つまり企業がどういう人材を求めているのか、について長沼さん、少しお話していただけますか？

どういう人材が求められているのか

長沼 専門知識ですか、経験はもちろん問うていません。もちろん、そういったものがあれば、皆さんの武器にはなると考えます。ただ、CSR環境推進室の業務で言

えば、社内の人たちと一緒に新しい仕事を始めたりとか、社外の方々と意見交換をして企画を立ち上げたりとか、そういう仕事がとても多いのです。ですので、人と会うのが嫌いだと言う人は、ちょっと向いていないかなと思います。まあ、これも慣れなので、やっていけばだんだん自分で能力的に育っていくと思いますが・・・。

司会 人とのコミュニケーション能力、ということですね。それ以外で何かありますか？

田中 コミュニケーション能力は重要だと思いますが、他に環境部が欲している人材は、大学の専門だけではカバーできない仕事をしているので、技術だけではなく、社会情勢とか、電気・エネルギーの場合、世界のエネルギー事情とか、政治と経済とか、幅広く、適切な情報を取れる能力、ということも要求されてくると思います。

山口 知識は、必要なときにぱっと身に付けられればよくて、コミュニケーションとか交渉能力とか、調整能力といったことが重視されると思います。ですから、最近の学生さんは、あまり人と話しながらいと言われていますけど、そのあたりは頑張る身に付けられた方が良いと思います。例えば、年の離れた人と話したり。学生同士では喋れるけど、会社に入れば当然他の部署の部長さんとかと話さないといけないから、できるだけ年の離れた人と話すことを練習されると良いと思います。

司会 この中で具体的に、世代の違う方とよく話す機会を良く持っているという学生の方いらっしゃいますか？・・・あ、結構いらっしゃいますかね。その方たちは、自分のコミュニケーション力を磨くと共に、他の人にもそのような機会を与えてもらいたいと思います。長沼さんや田中さん、コミュニケーション力を磨いていくヒントと言うか、こんなことを学生はしたほうがよいというアドバイスはございますか？

学生時代にした方がよいこと

田中 学生時代をどう過ごしていくか、と言うメッセージにも通じるかと思いますが、自分の業務だけをしていると、なかなかコミュニケーション能力はつきません。例えば、自然のことを話題として持ち出せるとか、芸術的な知識とか、あるいは自然公園に行って色々な体験をしてくるとか、色々見て経験することによって、自分の幅の広さを増やすことが大切なのではないかなと思います。学生さんなら今は時間がたくさんありますよね。社会人になると、一ヶ月も休んで旅行するなんてできませんから、旅行などの体験をすることによって、コミュニケーション力が養われるのではないかなと思います。

長沼 皆さんがすぐにはできることとしては、就職活動もすごく良い機会だと思います。大学生だと、自分の友達とか家族とだけ付き合っていれば良いので、なかなか会社の人間と会う機会ってないと思うのですが、先ほど申し上げましたが、興味のある業界や会社があったら、どんどん行ってみると。それで、OBや上の人に会ってみる。その中で、敬語の使い方はこれでいいのかとか、どのタイミングで挨拶をしたほうが良いとか、色々な不安

があると思いますが、今なら失敗しても許されますから、経験をしていくことで社会人になってからの予行演習ができるんじゃないかと思いますので、インターネットで応募するのも良いのですが、是非会社に遊びに行ってください。



多くの質問が出された

司会 前半部分に出た、皆さんが持っている今だけの特権、あるいは特権階級みたいなものですが、これをフルに生かしてたくさんの機会をつかまえてくれということですね。

さあ、そんな機会、特権を持っている皆さん、今までの話の中で環境部のこと、あるいは、環境部以外のこと、常に自分の中で環境の意識を持っていなければならないのだということが見えてきたかと思いますが、このことでこの方に質問をしてみたい方、挙手をお願いします。

質問 長沼さんと田中さんにお聞きしたいのですが、自己紹介で見ますと、長沼さんの場合は、サービスセンターから環境省に向向したと。それが転機となって、CSR部門に戻られたという流れだと思います。田中様の場合は、板橋区の営業をなさっていて、そこから環境部の方に配属になったと、仰っていましたが、その部署に配属された原因はどういうふうにお考えになっていますか？

環境部に配属されるきっかけ

長沼 私も環境省に向向と聞いて、何で自分がと思ったのですが、一つあるとすれば、環境省に向向するのは私で7代目なのですが、その前に必ず2年ずつなのですが、多分私の先々代くらいの担当者にとったら地球温暖化対策課に損保ジャパンの人間が配属されるようになったと思うのですが、そこでの主な仕事が国際交渉だったので。京都議定書に関わる色々な問題、日本は先進国ですから、途上国との間で色々折衝しなければならない。そうすると、英語が出来ないとなかなか苦しい仕事ですよ。私は、いわゆる帰国子女として、中学・高校時代はアメリカで過ごしたので英語は出来ました。本当は社内で国際部門の仕事がしたかったのですが、なかなかそういう機会に恵まれませんでした。自動車事故の調査をやっている

時に、最近日本でも外国人が多く住んでいらっしゃるの、外国人の契約者ですとか、外国人被害者の交通事故の規模が多くなったのですね。そうすると、営業は意外と話せる人間がいなかったの、とりあえず外人案件は長沼に回しちゃえというような、暗黙の了解みたいなものが出来上がってしまって。そこで多分、人事や上司がそういうことを聞いて、たまたま環境省が要望した時に合ったのかなと思います。

田中 私の場合は、営業課で地域とのコミュニケーション活動をやっておりました。東京電力の広報部門は、マスコミやマス媒体対応をしておりますが、具体的な部門の広報活動はそれぞれの部門に任せられています。環境部門としても広報活動やコミュニケーション活動の必要性が生じ、配属されました。

質問 長沼様と山口様にお聞きしたいのですが、部署の環境意識についてお伺いしたいのですが、というのも、学生の立場から環境を考える場合、環境をよくしたいという思想じみたものが多いと思います。実際、会社に入った後、環境の意識はどう変わるのか、例えば環境をよくすることは、企業にとって戦略的に益になるとか、そういう会社に入った後の環境意識をお伺いしたいです。会社に入ったことで変わった環境意識はありますか。

山口 最初は経理・財務部門でしたから、環境意識はまるでありませんでした。広報部交通環境グループにいて、段々環境の意識が高まってきました。うちは環境への取り組みは経営の最重要課題にしておりますから、環境の意識は環境部だけではなく皆持っていると思いますが、お陰様で一応企業の環境イメージではNo.1でございますので、誇りを持って取り組んでいます。

長沼 私は環境情報学部でしたから、学生時代は理想的な思想すら持っていなくて、環境問題は、ああ、そうなんだくらいしか思っていませんでした。うちの会社の旧安田火災が、金融機関の中では積極的に環境問題に取り組んでいることも、入社するまで知りませんでした。まあ、変わった意識というか、組織全体で環境問題に取り組んでいるので、入った時からそういう教育をされるという、例えば、会社の廊下やトイレの電気は使っていないか、消すとか、紙をできるだけ使わないとか、自分の机の横に一人ゴミ箱を三つずつくらい持っていて、ジュースのパックとストローを捨てるのでも、分別して捨てています。そういう文化が入社した段階であったので、自分達にとってはわりと当たり前という意識でやっているのですが、他社の方とお話をしていると、そんなことをやっているの、と言われることが多いので、芽生えたというか刷り込まれたということをやっています。

司会 むしろ、ここにいる学生の方がこの時点から環境意識が高いので、よっぽど進んでいるかもしれないですね。

長沼 ここにいるのが申し訳ないです(笑)

質問 田中さんに伺いたいのですが、環境の資格を取ることで自分の仕事にどのようなメリットがあるのでしょうか。

田中 先に、CONEリーダーを取得してから、CO

RNトレーナーになりました。東京電力では、1993年から自然体験の支援活動を行い、ノウハウが蓄積されたので、99年から先生方対象の環境教育の支援活動を始めました。自然系の研修会を受講いただいた先生に私も何か資格を出したいと思いました。民間資格を付与することができる団体になるために、CONEトレーナーを取りました。

もう一つは、環境カウンセラー。これは、環境教育支援の目的で取得しました。東京電力では、小学校や中学校に環境エネルギーの出前講座をやっています。大体年間10万人の子ども達にエネルギーや環境問題の大切さを理解してもらうような活動をしています。その時に、ただ東京電力の肩書きで行くよりも、市民の環境意識を高めるため役割をもつ環境カウンセラーの資格があったほうが、より説得力があると考えました。つまり、先生方のところに行く時に、こういう資格が非常に有効だと思って取得しました。

司会 大事なところなので確認しますが、先ほどの話を含めると、知識をつけるよりも、むしろ人間力・コミュニケーション力を高めようということなので、確かにメリットはあるかもしれませんが、資格を取らなきゃ、という考えにはならないで下さいね。

国際交渉のやりがい

質問 長沼様に伺いたいのですが、環境省に出向された時の主な仕事は各国との交渉ですが、交渉の中でこういったことが難しかったとか、こういったことにやりがいがあったということがありましたら。

長沼 各国といっても、全世界に国がありますし、その中でも日本というアジアの中でも唯一の先進国は注目を集めているんですね。私が主に担当していたのは、途上国との交渉、主に東南アジアの国ですね。そこの交渉ごと・折衝ごとを担当させていただいたので、やりがいは、CO2を減らしていくのが一応全世界的な課題になっている中で、途上国の方々は日本の省エネ技術を欲しているわけです。そういうものを出来るだけ良い形で何とか提供できないかと言う相談というか、打ち合わせをやっていたので、いがみ合うような交渉ではなくて、やると感謝される内容でした。だから、楽しかったです。

難しかった部分は、企業の出向者として環境省の仕事をしていただけですね。ただ、一応出向期間中には肩書きを頂いていましたが、やっぱり自分の気持ちとしては、民間企業の人間ですから、できるだけ世の中にためにいいことをやりたいし、実益の上がる効率的なことをやりたいという意識があるのですが、なかなか日本の役所は全てがスムーズに進むような体制になっていないのですよね。自分はこうやりたいのだけど、許可がなかなか下りないとか、そういった難しさはありました。

司会 まだまだ語りつくせないところはございますが、約1時間半にわたって、駆け足で「企業の環境部って何?!」というテーマで話を進めてきました。環境部だけが、環境のことをしているのではないようです。環境にいいことをしているのが環境部でもないようです。そして、

入社一年目での配属もないようです。ただし、皆さんが環境に対する意識、マインドをどれだけ持つこと、持ち続けられるかによって、恐らく社会に出てからの人生が大きく変わってくるのではないかなあとと思います。そのためにも今、皆さん自身が今磨かなければならないのが、コミュニケーション力、行動力といった、人間力。人間としての力を今、特権を与えられている時期だからこそ、どんどん磨いていってください、というお話でした。最後に1人1分ずつで、ここに並んだこれから将来自分の部下になるかもしれない、希望に溢れた若者に、一言ずつ応援のメッセージを、長沼様からお願いします。

一期一会を大切に

長沼 自分の就職活動で学んだことがありまして、「一期一会」ですね。色々な会社・組織を回られて、本当にたくさんの人に出会うと思うのですが、その方々と一緒に仕事をする機会は将来訪れないかもしれませんが、意外にそこであった方々と5年後、10年後ばったり何かの仕事で繋がることって多いのです、世の中って。そんなことないって仰る方もいるかもしれませんが、それは単に気付いてないだけです。なので、社会は意外に狭いので、ここで今日、面接をして、この会社第一志望じゃなくて、第二次面接も行かなかったからもう会うこともないと思わずに、逆にどこかで会うかもしれない、そこでまた何か新しい関係が生まれるかもしれないという意識で就職活動をやってください。そうすることによって、将来新たな関係が生まれるかもしれませんし、皆さんの後輩の方々にも道を開くかもしれませんので、ぜひそういう考え方で頑張っていたきたいと思います。

田中 このパネラーを受ける時に、環境の仕事をしていて嬉しかったことを伝えて欲しい、という依頼がありました。せっかく用意してきたので披露させてください。あの壁にかかっているのは、東京電力が読売新聞に出した広告のポスターですが、読売新聞社が1年間で一番良かった新聞広告だった、ということで大賞を頂きました。東京電力が発電所の周りに生息する鳥を題材にしました。読売広告大賞の副賞で200万円もらったのですが、鳥への恩返しのために巣箱を作り、希望するお客さまへ差し上げました。

次に学生へのメッセージですが、色々な勉強をしてくださいという話をしましたが、一つオタクになって欲しいと思います。何か専門性があるオタク。後は、センスを磨いて欲しいなと思っています。

山口 環境問題もグローバルになってきております。コミュニケーション能力も重要です。そういう面から言うと、英会話をしっかりやっておくとよいと思いますね。海外のNGOの人と話す機会も今後どんどん出てくると思いますし、途上国の人と話をしないといけなとかね。そういう機会は増えてくると思いますので。

司会 ということで、短い時間でしたが、お3方から人生に通じる話を伺うことが出来ました。皆さんも是非、これからの就職活動に大いに役立てていただきたいと思います。ありがとうございました。

アンケート集計結果 「シンポジウム」

(n=128)

1. 本企画は何でお知りになりましたか？

- ・メールリスト 7名(5.5%)
(エコ・リーグ、世代間環境フォーラムなど)
- ・ホームページ 12名(9.4%)
(エコリーグ、エコ2000、大学など)
- ・イベント 5名(3.9%)
- ・エコプロ広告 26名(20.3%)
- ・知り合いから 42名(32.8%)
- ・大学の就職課 30名(23.4%)
- ・その他 10名(7.8%)
(日経新聞の記事、『環境の仕事大研究』など)

2. 現在、サービスを受けている就職支援ツール(ウェブサイト、メールリストなど)はありますか？(複数可)

- リクナビ 108名
- 日経就職ナビ 74名
- 毎日就職ナビ 72名
- 学情就職NAVI 22名
- アクセス就職ナビ 8名
- メガジョブ 9名
- en japan 21名
- 就職コンパス 3名
- エックスジョブ 4名
- Yahoo! 求人情報 1名
- みんなの就職活動日記 14名
- その他 7名

3. 「環境問題に取り組んでいる企業」と聞いて、どこをイメージしますか？

- | | | | | | | | |
|------------|----------|---------|---------|----------|---------|--------|---|
| トヨタ自動車 43名 | 東京電力 28名 | リコー 10名 | 東京ガス 7名 | サントリー 6名 | キヤノン 5名 | NEC 5名 | コ |
|------------|----------|---------|---------|----------|---------|--------|---|

- | | | |
|---------|------------|-----------|
| スモ石油 4名 | イオン 4名 | 損保ジャパン 4名 |
| 4名 | エネルギー業界 3名 | シャープ 3名 |
| 日立 3名 | など | |

4. 印象に残った言葉・話・キーワードは何ですか？箇条書きで挙げてください。(は、特に多かったもの)

- コミュニケーション能力
- ジョブチャレンジ制度
- 環境と経済の両立
- 環境部はコーディネート役
- 環境部以外でも環境の仕事はできる、環境部だけが環境のことをやっているわけではない
- ・CSR
- ・入社一年目での環境部への配属はない
- ・一期一会
- ・組織のことを知ってはじめて環境部の仕事ができるということ
- ・ポテンシャル採用
- ・NGO・NPOとの関わり
- ・知識・スキルよりも人間力
- ・どの部でも環境について意識していることが重要、どの部署も環境につながる
- ・会社利益につながらないように見える活動も、どこかでつながっている
- ・今だけの特権を活かせ、今だから利害関係なく関わられる
- ・環境部は現場を見る必要があること
- ・人と接する力を身につける(磨く)
- ・会社を見る、他の業務を知る
- ・企業は金儲けのためにあるのではない、とはっきり言ってくれたこと
- ・営利は追求しないといけない



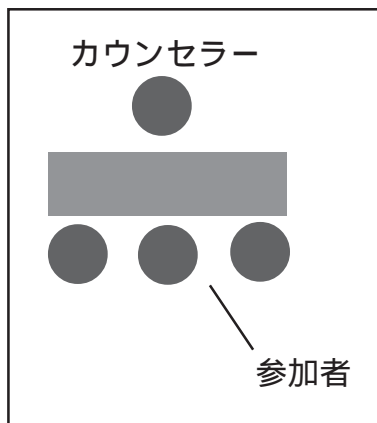
アンケート集計結果 「相談会」

以下(1名)製紙業・建設業・自動車メーカー・プラントメーカー・電機メーカー・銀行・小売・広告・出版・第一次産業・総合商社・食環境関係・国立研究所の研究者・化学研究者・中小企業など

環境就職進路相談会の形式

環境に携わる各業界・業種の社会人がカウンセリング形式で、学生の就職や進路上の相談に乗る企画。

およそ4時間を5タームに分けるので(1ターム/45分)数名のカウンセラーの相談が受けられる。



～配布資料～

カウンセラーリスト
カウンセラープロフィール集
アンケート

1. 相談会に参加する前まで興味を持っていた職種・業種は何ですか。

コンサルタント(9名)・公務員(5名)・環境教育(5名)、環境コンサルタント(4名)以下(3名)建設コンサルタント・エネルギー・小売、以下(2名)環境省・官公庁・行政・廃棄物処理・商社・自動車・自然環境保全・農業・林業・設計・研究職、以下(1名)環境アセスメント・機械メーカー、食品メーカー・化粧品メーカー・消費剤メーカー・金融・証券・保険・接客・公社・広告・水質分析・汚染処理・緑化・マスコミ・住宅・SE・NGOなど

2. 今回のカウンセラー以外で話を聞いてみたい職種・業種はありますか。

食品メーカー(3名)・化粧品メーカー(3名)・建設コンサルタント(2名)・化成メーカー(2名)・広告(2名)

3. 印象に残ったカウンセラーはどなたでしたか? また、印象に残ったことは何でしたか。

- ・Aさん@シンクタンク(コンサルとシンクタンクの違い、問題意識を持ち自分なりの考えを出すということ)
- ・Aさん@農業(農業をする人は売るだけでなく、消費者との交流などのイベントを開くことも大切)
- ・Aさん@シンクタンク(本を読み)
- ・Iさん@環境コンサルティング(入ってから知識は身に付ける)
- ・Uさん@地方自治体(女子が働きやすい職場、国と比べて現場があることが強み)
- ・Kさん@総合サービス(環境環境だけではだめ)
- ・Sさん@自動車(主要自動車メーカーの特徴がわかった)
- ・Tさん@環境教育(話し方が印象的だった)
- ・Nさん@保険(環境報告書を作るのにも、色々な活動を行っているので簡単だとおっしゃっていた)
- ・Mさん@シンクタンク(仕事がすきであることが伝わってきた)
- ・Yさん@国家公務員(環境政策に携わっている人数の環境省と経済産業省の比較)
- ・Yさん@エネルギー(自らこの国の政策を能動的にシフトできる)
- ・視野を広く
- ・コミュニケーション力が大事だということ、
- ・仕事を通して何をしていくか。仕事が人生の中でどの位置にあるか(価値/重さ)をしっかりと自己分析することが大切。一生のビジョンにも関わるとのこと。
- ・営業職で理科系の人が多いこと。
- ・問題意識を持つことが大事。それに自分の専門性が加わり解決に導くことができる。

4. 開催時期、時間配分、企画内容について、ご意見・アドバイスなどがございましたらお書きください。

カウンセラー一覧

環境省、経済産業省、資源エネルギー庁、地方自治体、財団法人、NGO(自然保護・国際) 農業、流通(商社・小売) 電力、物流、金融(証券・損害保険) 製造(繊維・鉄鋼・電機・化学・自動車・事務機器・機械) 環境計量証明、廃棄物処理、シンクタンク、コンサルティング(全般・建設・ISO認証・環境報告書) 人材派遣、環境教育、ホテル、マスコミ(出版・放送) 情報通信、ベンチャー、キャリアカウンセラーなど、53名

(開催時期・時間)

- ・開催時期をもっと早く、時間配分をもっと長く
- ・30分間の1タームで1つの会社しか見れないのが残念でした。2つくらいみれば・・・
- ・もう少し聞きたかった。
- ・3日間にかけて開催していただきたいです。
- ・タームを増やして欲しい!とでも5回じゃ足りません。
- ・時期を夏期にして欲しい。時間をもう少し長く。
- ・希望としては、50分は欲しいです。
- ・2日間にわたって実施して頂きたい。このようなイベントをたくさんやって欲しい。
- ・この時期でよかった。
- ・1対1だとちょっと長いけど、1対4だとちょっと短い。

(場所)

- ・タームの間の移動時間が短いと思う。
- ・会場が暑かった。
- ・椅子の間隔をもっとあけてください。
- ・2Fの行き方をわかりやすく表示して欲しい。
- ・カウンセラーの番号が、座席と冊子で違っていました。

(感想)

- ・仕事をしている人の意見を聞いて参考になった。
- ・少人数で対応して頂ける点や幅広い業種の方がカウンセラーである点でとても貴重なお話が伺えました。ありがとうございます。
- ・会社の説明の資料を事前に配る(数日前に郵送など)orweb上で公開などをしてほしかった。直前で配っても迷ってしまう。実際にそれを選ぶので2回分の時間を使ってしまった。よろしく願います。
- ・時間はちょうどいいかと思います。貴重な機会で、やはり事前にどの企業がいらっしゃるか知っていればよかったと思います。
- ・メーカーの方をもっとカウンセラーとしてお願いして欲しいです
- ・スタッフの皆さんお疲れ様でした。もう少し他種の業界の方が来て頂けるとさらによかったです。
- ・集団でカウンセリングを受けるので、やはり多数派のことばかり説明されて、自分の聞きたいことが聞けなかったのが残念です。

プロフィール集(例)

名前(ふりがな)	Y.I
勤務先 部署	環境調査・コンサルティング会社
仕事内容と環境との関わり	<p>企業や役所から依頼を受けて、環境問題の調査、分析、コンサルティング(改善提案)をしている。</p> <p>具体的には、環境アセスメント、環境モニタリング、環境報告書の作成など。</p> <p>環境アセスメントは、廃棄物処理施設などの生活環境影響調査、高層ビル建設や再開発事業などの条例アセスメント、大規模なお店に適用される大店立地法アセスなど、小・中規模で地域密着のものが多く。</p> <p>扱う環境問題は、地域密着のものが中心で、7大公害が多く、自然環境、景観、電波障害、日照、風害なども。</p>
職場でのある一日のスケジュール(例)	<p>9:30 出社(フレックスなので日によって異なる)</p> <p>9:30~10:00 メール、FAX、回覧物確認。契約社員に仕事をふる</p> <p>10:00~12:00 デスクワーク(パソコンで報告書作成)</p> <p>12:00~12:50 昼休み</p> <p>12:50~15:00 外出(お客様との打合せ)</p> <p>15:00~18:00 外出(現地下見、調査の段取り)</p> <p>18:00~20:00 デスクワーク(報告書作成、議事録作成、事務)</p>
新入社員に求める即戦力とは	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の全体像が見渡せる人:多くの環境問題を同時に扱うことが多いので、常に全体像と今やっってることの位置づけを確認する。 ・ものおじしないコミュニケーション能力:1つの環境アセスメントでも、開発主、設計会社、ゼネコン、他社コンサル、役所、外注先の調査会社、社内の他部署など、多くの関係者とかかわる必要があるため。相手の話を引き出せる人:コンサルは、引き出してなんぼというところがあり。 ・勉強好き:これも、コンサルの条件でしょう(笑)。
仕事をしていく中で身に付けた能力を「力」と表現すると・・・	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を引き出す力:コンサルは相手のニーズを引き出してなんぼというところがあり。入社当初は、自分の発言やPRに必死だったが、徐々に聞くことの重要性を覚えていった。 ・工程管理能力:物件の納期と、それまでのスケジュールを常に考えるようになった。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する勉強や活動をするとき、常に、すべての環境問題解決策のどのへんに位置するのかを意識。 ・大学の外で、ボランティア活動などに積極的に参加して、コミュニケーション能力アップ。 ・本を読む!(私は、活動ばかりしてて、読めなかったので)

アンケート集計結果 「カウンセラー」

(複数回答可 n=52)

1. 相談会に参加されていかがでしたか (複数回答可)

- ・いい刺激になった(23名)
- ・自分を見つめなおすきっかけになった(15名)
- ・横のつながりが出来た(6名)
- ・学生にちょっと失望した(2名)
- ・疲れた(7名)
- ・無回答(1名)

2. 主にどのような話をなさいましたか？

1位：業務内容(38名) 2位：勤務先(22名) 3位：個人(15名)

3. 印象に残った質問は何でしたか。

- ・今の仕事を自分でなくてもできると思うことはあるか？
- ・電力会社が「電気の使用量を減らしましょう」というのは事業と矛盾していないか。
- ・環境の資格を武器に面接を受けたいがどうすればいいか？
- ・中国からの留学生の採用もあるか？
- ・海外からの留学生を採用する方針はあるのか。
- ・国籍の問題
- ・専門性がないのに働けるのか。自分の専攻している分野が必要とされているのか。
- ・情報を捻じ曲げているのでは？
- ・青年海外協力隊について。
- ・シンクタンクは世の中の役に立っているのか？
- ・コンサルティング会社の見分け方って？
- ・コンサルって何といった初歩的な質問。
- ・仕事を通して実現させたい夢は？
- ・視聴率は気にするのか。
- ・中国に対する企業としての展開は？ / アジア全体に対する企業としての環境への取り組みは？
- ・入社後の仕事は希望通り選択できるか。
- ・英語が必要な理由。
- ・本を見て来ました。
- ・環境の資格が必要かどうか。
- ・廃棄物業者はどうやって利益をあげているのか、経営の規模はどのくらいか(売上)。

4. 学生と話していて感じたこと、又は学生に足りない視点・考えなどがあればお書きください。

(感想)

- ・昔の自分を思い出した。あと皆さんよく勉強されてるなぁと感心しました。
- ・自分の学生時代の悩みと同じような考えを持っている人がいて、当時を思い出した。
- ・私が学生のときよりもずっとまじめに就職のことを考えていると思いました。
- ・皆さんの熱意を感じました。
- ・真面目に考えている
- ・楽しい人が多くて何よりでした。
- ・熱心な学生さんが多く楽しい時間でした。
- ・よく勉強している人、中途半端な人、何も考えていない人、それぞれですね。

(足りない視点)

- ・前向きに考えている人と何も知らない人と色々。知識はあるが、自論に自信が無い。
- ・「まず始めてみる」ということに対して不安を持つ人が多い。「知識がない」ということに対しての情報の集め方がわからないようだ。
- ・まだ自分が何をしたいか決められない人もいる。人とのつながりを大切にしたい。
- ・時期的にまだ早いかもしれないが「環境」という言葉にとらわれすぎている気がしました。やりたいことがまだ見つからず苦労している人が多いと思います。資格・スキルにこだわりすぎかもしれません。
- ・大学3年生がメインということで、まだ自分の希望する業界・職種など、具体的にイメージできていない学生が多かったです。
- ・具体的な疑問、質問が欲しい。全般の説明と言われても困る。去年よりは考えている学生は多いと感じましたが・・・。
- ・環境調査の会社に就職したいというが、大学を出てすぐに環境部門に入るのとはどうかと言っておいた。実業を数年してから。
- ・ある程度仕事内容を知っている学生とは話が弾むが、そうでないと難しい。
- ・何をすべきかまだ明確でない。
- ・仕事に対する明確なイメージをより持っていたほうがよい。
- ・理想を追いすぎ。
- ・まだ切迫感が少ないと思いました。
- ・仕方が無いところと思いますが、現実味が不足しているところ。
- ・お金を稼ぐという意識が足りない。
- ・企業は利益を上げる組織だということ。
- ・「どうすれば入れる？」という質問が続くと、少しせつない。
- ・インターネットをもっと多く活用してください。



(人として)

- ・思ったより学生がおとなしかった。
- ・少し遠慮気味だと思いました。もっと元気があっても良いと思います。
- ・話す人(質問する人)としない人の差が大きい。
- ・声が小さいとか、自己紹介も出来ないとか、コミュニケーション能力が不足している人がいました。
- ・食い下がり方。うざったいくらい質問して欲しい。
- ・自信のなさ、マニュアル信仰過多。

5. 次回以降のシンポジウム等のテーマなどご提案があればお書きください。

- ・環境経営について
- ・環境で会社を選ぶポイント?!何を基準に環境企業を選んでいるか、わからないのでは?
- ・環境の就職先についての基礎知識。AMに全体像を説明しては?環境問題の全体像と、各業界・職種との関係がわかるようなシンポジウム。
- ・人とのつながり

6. 一回の相談会の時間にはいかがでしたか。

長い(0名)・少し長い(4名)・適当(25名)・少し短い(7名)・短い(0名)・無回答(1名)

7. 次回もこのような企画がありましたら、都合がつけばご協力いただけますか。

協力したい(34名)・協力したくない(1名)・どちらとも言えない(2名)

8. アドバイス等おねがいします。

(当日)

- ・もう少しグループ化が出来れば良いが、グループ内で玉石混交だと話しにくい。
- ・学部か修士かぐらい知りたい(質問すればよかったか

も)

- ・学生のプロフィールや問題意識を書かせて、それをはじめに出してもらったら良い。
- ・学生がカウンセラープロフィールを事前に見たかったといっていた。
- ・5セットということは、5人から話を聞けるということですが、そんなに多く必要なのでしょうか。私でなくてもいいと思う学生も何人がいたので、セットを減らしてもよいのではと思います。
- ・学生も打ち上げに参加希望者が多いのでは?と思いました。より突っ込んだ質問も出来るかなと思います。
- ・番号札だけでなく、ジャンルも書いてると良いかも。
- ・カウンセラーに名札とかがあると話しやすい。

(事前)

- ・学生の質問アンケートがもらえたのが良かった。その後も質問できる仕組みがあれば(個別にメルアドは教えましたが)、「資料に載っているよ」ということが多かったので、事前にプロフィールを読む時間があればよかった。お疲れ様でした!
- ・前回のプロフィールを送って頂いたのは、入力の手間が少なく助かりました。
- ・エコプロ入場の仕方が2日前まで不明だった。
- ・シンポジウムの案内を下さい。

(その他)

- ・転職、フリーターの多いのが気になる。これは良いと思う学生もいる。環境をやりたい学生の性向をアンケートなどで調べたらどうか。例えば育ちの環境とか、田舎があるか・・・。
- ・カウンセラー年令(キャリア)について- 学生に近い年代がよいのか、キャリアの長い年代が良いのか・・・参加する学生はどちらを望んでいるのか把握してみたいかがでしょうか。
- ・各大学へのこの会の紹介とか、知らしめる手段などを多方面からやったらどうか。

(感想)

- ・とても良い企画だと思いました。
- ・何もございません。素晴らしい対応をありがとうございます。
- ・よい取り組みだと思うので、引き続き来年もやってもらえたらとおもいます
- ・皆さん、お休みのところ細かい配慮いっぱいのお会をありがとうございました。社会的に意義のあるこうした場に声をかけていただけで良かったです。本当にお疲れ様でした。
- ・お疲れ様です。これからも頑張ってください!!
- ・毎年、ご苦勞様です。
- ・スタッフの方々、懐かしい面々にお目にかかれて良かったです。
- ・エコリーグの方の対応がとてもよく、自分の学生の頃と比較し、とても刺激になりました。

「相談会」をより充実させるために

「プレ就職相談会」報告

社会人カウンセラーに相談するための準備と予備知識を付けていただくために、参加事前申込者を対象に「プレ就職相談会」企画を行いました。

開催日：2004年12月4日（土）18:45～22:00

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：16名

講演「相談会を上手に利用する方法」

講師：小林 功英

エコ・リーグキャリアサポート部 部長

キャリア・カウンセラー（CDA）

講演内容のポイント：

仕事選びは、「自分がやりたいこと」を考えるのではなく、「お客さんがやりたいこと、つまり、どのようなニーズに対して、どのように応えたいか、あるいは、応えられるか」などの視点から考えること。

スキルや知識を気にする学生が多いが、お客さんからのニーズがあって、初めて専門知識が重要になること。

「環境」就職・進路相談会の参加申込者からの200近くの質問を、大きく6パターンに分類。それぞれのパターンについて注意すべき点をアドバイス。

〈「環境」就職・進路相談会事前受付の質問の6パターン〉

1. 「学部・スキル・資格」についての質問
例：理系と文系で有利・不利はあるか。
2. やりがい・入社動機など「個人の想い」についての質問
例：職業の選択理由を聞きたい。
3. 「環境関連部課署」についての質問
例：環境部の実際の仕事内容を知りたい。
4. 「企業の環境問題への姿勢」についての質問
例：環境への取り組みは、実際にはどのくらい重要視されているのか。
5. 具体的な分野や今後の展開など「環境関連の業界・職種」を問う質問
例：環境コンサルタントの仕事について聞きたい
6. 「環境の政策」についての質問
例：環境税について、どう思いますか。

カウンセラーへ効果的な質問を行うには、ある程度準備が必要で、次の二つの点に気をつけて考えること。

- ・その質問の「前提」と「理由（何を明らかにしたいのか）」を考える。
- ・質問の「答え」について、まず自分で考えて、意見を持つ。

グループワーク「環境業界の動向（仮称）」

講師：安達 剛 氏

エコ・ビジネス・ネットワーク

環境ビジネス創発コンサルタント。共著に「環境の仕事大研究」。

内容のポイント：環境ビジネスを考えてみる。

趣旨：環境ビジネス創発のプロセスを考えることで、

1. 法規制から生まれる環境業界の仕組みを知る
2. 環境ビジネス・環境経営の違いを知る。
3. 消費者・企業・行政のそれぞれの役割を知る。

《環境ビジネス創発ゲーム（途中まで）》

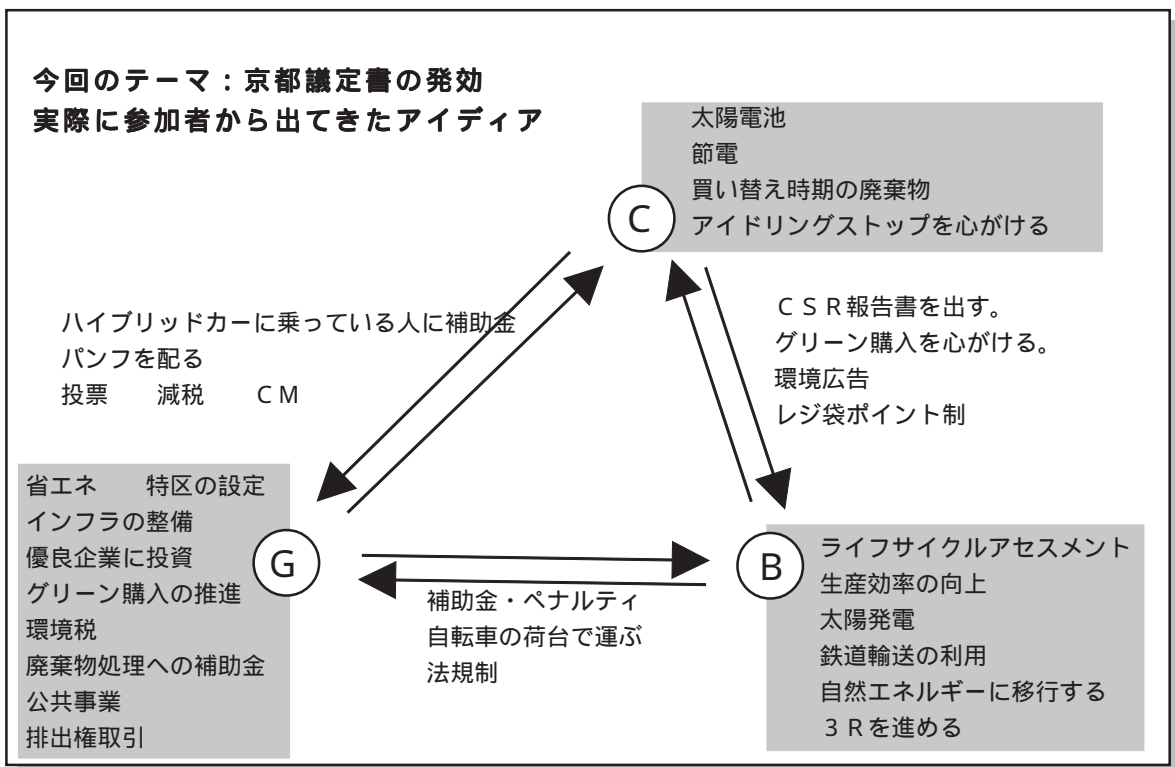
テーマを発表、それぞれのグループで、G (Government)、C (Customer)、B (Business)がそれぞれ単体での「取り組み」を5つあげていく。(G、C、Bについて、それぞれ5つずつ)

それぞれのセクターの「取り組み」について、他のセクターと、どう関係してくるかを考える。

その中で、Bに注目して、「売れる（利益になる）もの」「売れない（コストになる）もの」に分類する。

更に、「売れるもの」に注目し、具体的な例を挙げながら、「どうしたら他セクターが買いたいと思うか」を考えてみる。

・・・という進行で進めていく。



感想：

B to C、B to B等のビジネスの仕組みが分かった。

環境ビジネスを理解できた。

法律等によって、色々な動きが出てくるのが分かった。 など

環境の仕事

学生が、ある会社に話を聞きに行きました。

そこでは、生分解性プラスチックの文房具を
売っていました。

学生は、営業部の社員に話を聞きました。

それは環境の仕事ですか。

問いに対して、その社員は、
無表情で、関心がなさそうに答えました。

そんなこと考えたことないね。
私は上司から言われたことをやっているだけだから。

学生は、次の会社に話を聞きに行きました。

そこでは、普通の文房具を売っていました。
学生は、営業部の社員に、同じことを聞きました。

それは環境の仕事ですか。

すると、その社員は
表情を輝かせ、熱心に、こう答えました。

ええ、いま、なんとか環境にやさしい文房具を
提案するために、奮闘中なのです。

どのような会社で、何を売っているか。
それが「環境の仕事」を定めるわけではありません。

皆さんは、どのような想いで、
「環境の仕事」をしますか？

緊急速報

2005年冬

全国3地域で開催！

東京会場：

12月「エコプロダクツ展」内

名古屋会場：

11月 未定

大阪会場：

12月 未定

社会人カウンセラー・スタッフ募集！

「環境」就職・進路相談会では、カウンセラーを募集しています。
詳しくは、エコ・リーグもしくは「環境」就職・相談会ホームページまで。

www.eco-2000.net
soudankai.eco-2000.net

STAFF

実行委員長	浅岡	良彦（慶應義塾大学4年）
副実行委員長	小林	功英（団体職員）
シンポジウム担当	浅岡	良彦（慶應義塾大学4年）
カウンセラー担当	飯塚	知子（横浜国立大学大学院1年）
	近藤	大介（会社員）
受付	山下	裕子（獨協大学2年）
広報／会計	小林	功英（団体職員）
ホームページ	神代	沙紅良（会社員）
当日運営	竹内	寿浩（会社員）
	片岡	雅子（慶應義塾大学3年）
「プレ相談会」運営	小林	功英（団体職員）
	山下	裕子（獨協大学2年）
エコ・リーグ担当理事	小清水	宏如（団体職員）

Special Thanks

エコプロダクツ2004事務局ご担当様（長谷川様）、富士ゼ
ロックス萬ヶ谷様、パネリストの皆様、カウンセラーの皆様、え
こみゅにけーしょんスタッフの皆さん、参加者の皆さん

主催団体エコリーグとは

エコリーグは、環境問題について考え、話し合いたい、
何かしたい、情報を得たい、等、様々な想いを持った
人々にとって、探し求めるものを見つけることのできる
「場」であることを目指し、活動しています。

「環境」就職・進路相談会 実施報告書

2005年3月12日発行

編集責任者 小林功英

問い合わせ エコ・リーグ事務局

URL: www.eco-2000.net MAIL: eleague@mx.mesh.ne.jp

本報告書の記事・写真等の無断転載を禁じます。

この報告書はフィクションです。実在の人物・組織等とは関係ありません。